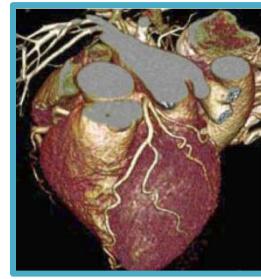


CTの紹介

当院では、2013年7月にSIEMENS社製 SOMATOM Definition AS+という新型64列MDCT(Multidetector-row computed tomography)を導入しました。従来当院で使用していた16列MDCTと比べると64列MDCTは、検出器(人体を透過したX線を検出する部位)の数が多くなることで、一度に複数の、かつ細かい断層画像を得ることができます。また、一度に複数の画像が得られるということは、その分検査時間の短縮が可能となり、さらには被ばく低減へと繋がります。



左;心臓

下;肺



画像提供:シーメンス・ジャパン株式会社

今回のCT装置の刷新において、特に息を止める必要がある検査の場合(これまで小児や高齢者にとって困難であった20秒弱の息止め時間)、わずか数秒に短縮されます。また、撮影に要する時間が顕著に短縮されたことで、収縮と拡張を常に繰り返し行っている心臓検査にも有用となります。

64列MDCTの導入に伴い、当院でも心臓CT検査を開始しました。

細かい画像情報を収集することで、それを元に高画質の三次元画像を作成することも可能となります。循環器領域である心臓や、外科系領域の腹部の血管などが対象となります。整形領域の骨や関節などにも三次元画像は利用されています。

立体的な画像を作成することにより、検査対象部位がより観察しやすくなるという利点が生まれますので、当院では新規CT導入と同時に、最新の三次元画像作成装置も稼働しています。

最新型64列MDCTの導入による、高機能、高画質を求めた質の高い医療を提供することで、検査時間の短縮と被ばく低減が可能となり、その結果として、患者さん自身への身体的、精神的な負担も軽減されることへと繋がります。